

体腔液検体（胸水）における機器測定分類報告についての検討

～好中球、リンパ球について～

◎赤座 久美子¹⁾、早川 英一¹⁾
名鉄病院¹⁾

【はじめに】自動血球分析装置の進歩により、多くの施設で体腔液検体測定モードを搭載した機器を使用出来るようになってきている。機器による分類は分画不良となる場合もあり、目視計数、目視分類が実施出来ることは必須である。今回、検体検査部門での胸水検体の好中球数、リンパ球数の目視再検について検討したので報告する。【対象】平成28年1月から12月に当院検査部に提出された胸水検体を対象とした。測定機器はXN-1000（Sysmex社製）を使用した。【方法】測定項目：WBC-BF（白血球数）/ μL 、RBC-BF（赤血球数） $\times 10^4/\mu\text{L}$ 、リサーチ項目：HF-BF（高蛍光強度細胞）/ μL 、Mo（単球領域）%/WBC-BF、Neut（好中球数）/ μL 、Lymph（リンパ球数）/ μL 、計算盤使用による目視総細胞数計数と目視鏡検細胞分類、散布図①WBC-BFと目視総細胞数②WBC-BFとRBC-BF③WBC-BFとHF-BF④WBC-BFとMo%/WBC-BF⑤Neutと目視好中球数（目視好中球% \times 目視総細胞数）⑥Lymphと目視リンパ球数（目視リンパ球% \times 目視総細胞数）【結果】①10,000/ μL 以上は機器の測定範囲以上を超えており、フラグメッセー

ジ：WBC Abn Scattergram や低信頼性参考値表示@となった。測定した62検体中1,000/ μL 以上は22検体であった。②血性胸水③HF-BF増多④Mo%増多/WBC-BFは乖離の要因となった。⑤⑥目視を実施した44検体中Neut：1,000/ μL 以上は8検体、Lymph:1,000/ μL 以上は7検体であった。乖離の大きい検体は②③④や好酸球増多、細胞集塊、不明細胞等が認められる検体もあった。【考察】胸水検体機器測定において、WBC-BFとフラグメッセージやスキヤッタグラムを確認する。RBC-BF、HF-BF、Mo%/WBC-BFの増多を確認し、Neut（/ μL ）とLymph（/ μL ）はスキヤッタが良好であれば機器数値報告は可能であると考えられる。目視再検が必要な場合は目視計数、目視分類を実施する。その他の細胞については検体検査部門にて対応出来ない場合はコメント記載を行い、次に必要な検査依頼につながるようにする。【まとめ】体腔液（胸水）検体について、機器測定値を有効に利用し、好中球、リンパ球については目視再検を含め報告は可能である。
連絡先 052-551-6121